

選考委員特別賞

交通安全教育における園児のクラクション体験

実体験通じ目指す「生命輝く交通社会」

は
ち
ど
り

はちどり（石原慧子社長、愛知県安城市）は、自動車教習所「コアラドライブ安城」を展開するほか、幼稚園や小・中・高校の交通安全教室、高齢者講習、企業向け安全運転講習などを幅広く展開する。同社が運営する人と安全研究所は、愛知県内における交通死亡事故が2003年以降16年連続でワースト1位だったことを危惧し、「愛知県の中でも安城市が事故が一番少ない街にしたい」との思いで設立した。研修理念は「日本一、安全で事故のないまちづくりの実現」と掲げ、長年にわたって、安全運転の意識

を高めることを念頭に交通安全教育に注力してきた。

交通安全活動を継続している中、21年、22年に子どもが通園バス、自動車に置き去りにされる事故が頻発した。「自分たちに何ができるのか」と考えたときに始めたのが、交通安全教室のカリキュラムの中での、園児の置き去

り事故防止対策としてクラクション体験を採り入れることだった。

22年秋にはクラクション体験を組み込んだ交通安全教室の開催にこぎつけた。バスの運転席でクラクションを鳴らそうとするも、園児の力では、運転席に座ってクラクションを鳴らす力がないことが



判明。そこで「立って両手で押してみよう」と提案し、全体重をかけて鳴らす必要性があることなどを実体験を通して理解してもらう取り組みを行った。

交通安全教室におけるクラクション体験は、園だけでなく、保護者からの反響も大きかったという。そこで、地域住民なども含めた多くの人たちへの体験機会の拡大を検討。コロナ禍に開始した教習所の休日



にコースを自転車の練習場所として活用する取り組みの中で、乗用車のクラクション体験に乗り出した。

同社では「生命輝く交通社会」を目指し、今後も地域の交通安全センターとして、交通事故のない交通社会の実現に向けて活動を続けていく。

◇

【コメント】小さな子どもたちの尊い生命を守りたい。そんな一心で始めた取り組みが、栄えある授賞を賜りますこと深く感謝申し上げます。時代はデジタル化が進む中、子ども達の心に届く生命を守る教育は、体験に勝るものはないと考え活動してきました。交通安全教育に携わる一員として、全ての生命が交通事故で失われることがなく、自動車が人を幸せにする乗り物であり続けるため、今回の賞を励みに今後とも精進してまいります。